

令和2年(2020年)1月16日

於. 水道部第2別館 研修室

議事録(大要)

- 【出席者】 北詰委員、近藤委員、原委員、松田委員、宮内委員、荒木委員、池上委員、石井委員、加藤委員、川西委員、竹井委員、土井委員、中委員、西野委員、藤木委員、藤村委員、矢吹委員、山上委員、山口委員
- 【欠席者】 木田委員、田口委員
- 【傍聴者】 なし

議事

1. 水道料金改定について(報告)
2. すいすいビジョン2029の実行計画について
3. 報告案件
大阪広域水道企業団との人事交流について
令和元年度(2019年度)版経営レポート(案)について

事務局 ただ今より第12次水道事業経営審議会第6回の会議を開催いただきしたいと思います。本日の傍聴希望者はいらっしゃいません。それでは、会議に先立ちまして会長からご挨拶をいただきます。会長よろしくお願ひいたします。

会長 (挨拶)

事務局 ありがとうございます。続きまして、水道事業管理者よりご挨拶申し上げます。

管理者 (挨拶)

事務局 ありがとうございます。それでは、本日の審議をお願いするにあたりまして、資料の確認をさせていただきます。

(資料確認)

それでは、ここからの議事につきましては会長にお預けさせていただきます。会長よろしくお願ひいたします。

会長 まず、一つ目の案件の水道料金改定について報告いただきしたいと思います。

事務局 (水道料金改定についての報告)

会長 ありがとうございます。本審議会では、「水道事業の経営状況と適正な料金水準」という議題で議論を行い、意見書として水道部及び市へ提出をさせていただきました。その意見書に基づいて料金改定を進めていただいた中で、今回の審議では、提出した意見書

に照らし合わせた質疑や、全体的なことについて質疑をいただきたいと思います。

委員 資料1の24ページについて、⑧の「将来世代への負担を増やさないようにする」というのはどのようなことですか。また、⑩の「市の責任でバックアップできる手法」とは具体的にどのようなものですか。

事務局 ⑧については、本審議会の意見書に記載している内容に沿うような意見となっており、将来につけを残さないような経営を行うということであり、その意見が11月定例会においてもありました。また、⑩について、市の責任でバックアップできる手法というのは、一般会計からの支援も含めた検討もしてほしいという意見です。

会長 5ページの棒グラフをみると、資金不足額の約143億円を補うために収益を約43億円、企業債を約98億円としています。もっと多く企業債を借りることも選択肢の一つとしてはあるのですが、これは、将来世代への負担を考慮して約98億円に抑えたということであり、11月定例会の意見にもあった「将来世代への負担を増やさないようにする」ということに対する水道部の答えであると思います。

委員 市民説明会について、参加人数72名で、一回平均10名程度となっていますが、私が住んでいる地域では、この説明会について知らない人もいたため、周知が十分であるか疑問に思いました。今後、料金改定について市民へ説明をすることは考えていますか。

部長 議会においても市民への説明をしっかりとすることの指摘をいただきました。水道部では引き続き市民へ水道事業の現状や課題について説明し、理解を得ることに努めたいと思います。地域の集まり等があれば、水道部の職員が足を運んで説明をさせていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

会長 この経営審議会の大きなコンセプトの一つとして、水道部の職員には地域に飛び込んでいくことを前会長の時から行っていただいています。この72名というのは、他の自治体からすると、かなり多くの方が参加しており、かなり努力して説明会を行っていると思います。一方で意見がありましたように、要望があれば今後もこのような説明会を積極的に行っていただき、地域に飛び込んでいただきたいと思います。

管理者 昨年に東京で開催された全国の水道事業管理者会議において、他市から料金改定についての発表がありました。その際に、市民説明会について質問をしたところ、行っていないという答えでした。その市では、市民の代表である議会で説明をすれば十分であり、さらに、市民に直接説明をすることで反対をされては料金改定をすることは困難になってしまうという説明でした。この説明を聞いて、市民へ直接説明をして料金改定をすることができたということは吹田市の長所であると思いました。今後も料金改定について市民へ直接説明をすることや「水道いどばた会議」等で地域に直接出向いて水道事業について知っていただくようなことを継続したいと思います。

委員 私は市民説明会に参加しましたが、かなり人が少ないと思いました。しかし、内容や説明がとてもわかりやすく素晴らしい説明会であったため、水道部からは、今以上に市民へ広報をした方が良いと思いました。

会長 水道部はもっと広報をしていただき、多くの方に説明をするという姿勢が必要であるという叱咤激励でした。一方で、水道部がこのような機会を設けているので、市民もこのような説明会などに積極的に参加していただきたいと思います。市も市民もどちらも積極性を持つことが重要であると思います。

委員 市民説明会より前にも、水道いどばた会議として様々な地域に出向いて説明を行っていたことは、素晴らしいことであると思います。また、すいすいビジョン2029においても「安全、強靱、持続」の三つの柱に加え「地域」という基本方針を加えた際に、とても素晴らしいと思いました。市民説明会では市民に料金改定の必要性についてわかっていただくことができ、議会においても全会一致で可決されたということから、水道部の地道な努力や様々な方面への説明を行ったことが市民や議会への理解につながったと思います。一市民としては値上げしないことが良いですが、必要な費用を必要な場所にかけることは当然であり、その前提には徹底した広報及び広聴があると思います。この市民説明会の参加者数は妥当であると思いますが、さらに市役所や公民館等にポスターを張るなどを徹底していただければ良いと思います。

部長 今回の市民説明会は、ホームページなどのあらゆる手段を尽くして参加者が72名であったことは反省する必要があると思います。説明会の直前に職員がちらしをポスティングも行いましたが、水道について市民に興味を持っていただけないということが現実にあると思います。しかし、このままでは良くないので、今後はどのようにPRをしていくかということを中心に検討をしたいと思います。

委員 私は、様々な審議会に参加させていただいていますが、市民や議会の意見等が審議会に提示されることがあまりなく、パブリックコメントについても行った後は事業体任せになってしまい、審議会にフィードバックされることがあまりありません。しかし、吹田市ではそれを行っているため、委員の立場からとてもありがたいと思いました。また、今後は耐用年数を超えた管路が増えていくと思いますので、管路の布設替えに対する投資効果は確認する必要があると思います。アセットマネジメントをしていただき、資金をいかに効率的に使うのかという観点で検討をしていただきたいと思います。

事務局 今後の投資効果の検証については水道部としても重要であると考えています。それを確認して市民へ公表し、次の議論につなげたいと思います。その中で、水道部ではマッピングシステムという膨大な管路データが入っているシステムがありますので、それをうまく活用して、工事を行うことで何件が新しい耐震管路を通して水を送ることができるのかな

ど、工事の効果等をわかりやすく示したいと思います。

会 長 ありがとうございます。では、次の議題に移りたいと思います。

事 務 局 (すいすいビジョン2029の実行計画についての説明)

会 長 ありがとうございます。経営審議会としては実際に水道部の計画や実施状況をみて評価し、適切に改善を進めていることを確認することが必要であると思います。すいすいビジョン2029の実行計画について説明していただきましたので、これについて質疑及び審議を行っていききたいと思います。

委 員 コスト削減について、情報通信技術を活用した水道メーターの検針方法であるスマートメーターの検討及び導入に向けて進めている事業者がありますが、吹田市では導入を検討していますか。

事 務 局 スマートメーターについては大都市を中心に実証実験を進めているところがあります。本市においてもその効果を検証するための地域を限定した実証実験ができないか検討しています。現在はスマートメーターの検証に適した地域を探しているところであり、実証実験ができる環境を作ることを考えています。

会 長 どの地域でスマートメーターの検証をすることがふさわしいかなどを既に先行して検証を行っている事業者もあります。例えば、まとまって住宅開発されている地域や多様な水の使い方をしている地域で検証しても良いと思います。吹田市が先行してするのか、あるいは、すでに検証を行った事業者を参考にするのか、様々な方法を検討して導入に向けて進めてはどうかと思います。

委 員 小水力発電の導入について、どれくらいの発電能力がありますか。それに加えて、今後は別の場所での導入は考えていますか。また、フューチャー・デザインを取り入れることについて、非常に良いことであると思います。考え方を取り入れていただき、活発な議論をしていただきたいと思います。先ほど市民と連携をするという説明がありましたが、フューチャー・デザインの取組として水道いどばた会議で取り入れるなど様々な形で行っていただくことを検討いただければと思います。

事 務 局 小水力発電の導入について、昨年11月1日から発電を開始し、年間の予定発電量としては、約156MWhとなっております。これは一般家庭の約50軒をまかなうことができる発電量となっております。

会 長 PDCAサイクルの観点からは、この成果を活かして小水力発電を行う場所を増やすのか、それとも課題があるため再検討をするのかなど様々な評価があると思います。11月に開始したばかりであるため、評価をすることはまだ難しいと思いますが、今後の導入の検討はどのようにお考えですか。

- 事務局** 今後の導入については、小水力発電の導入が可能な場所の診断を行って判断をしたいと思っています。佐井寺配水場の小水力発電は土地貸し方式を採用しており、水道部からは支出を伴わずに民間企業と提携をし、民間企業に設置や配管を行っていただいています。そのようなことを考慮し、津雲配水場や現在更新工事を行っている片山浄水所などでも行うことができればと思っています。
- 委員** 資料2の7ページについて、PDCAサイクルを説明しているこのページは必要ないと思います。さらに、8ページ以降の説明がどのようにPDCAサイクルにつながるのかわかりづらいいと思います。また、9ページがハード面、10ページがソフト面であるという説明がありましたが、10ページの「応急給水に必要な資機材等の確保」や「災害時給水拠点及び災害時給水所の整備」というのはハード面ではないでしょうか。最後に、11ページの「無くす減らす代える」というのは、どの事業に関係しているのでしょうか。
- 会長** 7ページのPDCAサイクルについては知っている方からすると当たり前のことではあると思いますが、委員の全員に知っていただくために説明していただいたと思います。しかし、指摘がありました部分については、わかりやすさを追求していただくとともに、解説いただければと思います。
- 事務局** 9ページ及び10ページについて、9ページが施設整備面、10ページがソフト面と分けさせていただいていると説明しました。9ページは施設の更新や維持管理となっており、安定した水道水の供給、強靱な水道システムの構築や危機管理体制の強化を目的としています。10ページは危機管理マニュアルの運用など応急給水や応急復旧の体制の確保や災害対応能力の向上を目的としています。近年、複数の災害に見舞われたこともあり、さらに、すいすいビジョン2029の中でも重要な施策であるため、2ページに分けて資料を作成させていただきました。また、11ページについて、その他のページでは写真を入れさせていただいていますが、持続には写真よりも「無くす減らす代える」という観点から業務改善をするということで、このイラストを載せました。
- 会長** 強靱というのは被害を受けないようにすることと被害を受けた際、早急に改善にすることが一般的にあり、9ページは被害を受けないようにする施策が記載されており、10ページは被害を受けた際の早急な改善策が記載されていると思います。そのため、ハード面及びソフト面という表記よりも被害を受けないようにすることと被害を受けた際、早急に改善にすることという説明の方が理解しやすいと思います。また、11ページについては、具体的な取組内容の令和2年から令和7年までの年次進行と、「無くす減らす代える」という事業が対応しているように見えますが、それぞれの事業に「無くす減らす代える」という取組があるという説明していただければ委員に理解していただけたと思います。それぞれの事業にPDCAサイクルがあり、それぞれ年次進行しているというロードマップ

のような指針となっているため、それに対応して説明していただければ良いと思いました。

委員 アクションプランの概要について、事業ごとに数値等の記入の有無がありますが、この取組内容の表記だと令和7年には事業が終わるようにみえるため、少なくとも数値等が記入されている取組についてはもう少しわかりやすく記入した方が良いと思います。

事務局 このアクションプランは6年間の計画期間で行うため、令和2年から令和7年となっています。令和7年にすいすいビジョン2029が終わるわけではありませんが、令和2年から4年間過ぎ、令和6年及び令和7年に見直し、その先を見据えて計画を立てていくことを考えています。現在示すことができる計画が令和7年までであるため、この資料のように表記させていただいております。また、数値等については、表記にもう少し工夫が必要かと考えます。今後はどのようにこのビジョンを進めていくのか検討中であるため、その検討の部分を示すことが欠けていたかと思えます。

副会長 アクションプランというのは令和7年までにどのようなことをするのかという項目と具体的な数値等を示す必要があると思います。今までは、ある程度全体から抜粋して資料を作成させていただいており、詳細までまとめて書かれた資料は今後出していただければと思います。この資料は全体の中で令和7年までに行う取組の一部を頭出ししていただいている資料だと思います。

会長 資料の作成についての指摘であり、この経営審議会で議論する中で、必要な情報の提供方法があるのではないかという意見でした。一方でこのビジョンは2029年が目標となっていますが、この令和7年というのはその目標の途中であるため、その中でどのような取組を行うのか記載できるところは記載していただき、記載できないところは2029年に向けて取組の中で行っていただくことになると思います。このビジョンは2029年という目標年度の中の令和7年までの記載となると思います。4ページには具体的な実行計画として6年間の表記がありますが、それぞれのアクションプランの概要でみるとわかりづらくなってしまいうということが原因であると思いますので、書き方を工夫していただければ良いと思います。

事務局 アクションプランについてご指摘ありがとうございます。説明に漏れやわかりにくい部分があったかと思いますが、詳細な内容については今後担当部署と協議を行い、実際にまとめましたら、委員の皆様にご覧いただきたいと思います。今回の資料は全体を網羅したものを頭出ししています。本日いただいた意見は、今後アクションプランをまとめていく中で留意して進めたいと思います。

委員 このアクションプランの中の「地域」について、吹田らしさというのは、12ページの目的にあるように情報発信・情報提供を充実し、市民からの理解を得て満足度を高められる

ような地域にしていくことであると考えました。今でも、市民への対応や情報提供が素晴らしいと思いますので、満足度を高めるという点で市民の理解を得る前段階として、水道に対しての興味を持っていただくことや安心度を高めるような情報提供の工夫が必要ではないかと思います。また、私自身の意見としては、市民は水道に興味がなくとも防災には興味があるため、どこかで災害が発生した際には、ホームページ等で防災に絡めた水道に関する情報発信を行うことも必要ではないかと思います。

会 長 いただいた意見を参考に今後も取組を進めていただきたいと思います。

委 員 今後、施設整備などで財源が必要となる中、独立採算で事業を行うことは素晴らしいと思うのですが、限界があると思います。営利目的ではなく、市民のいのちと暮らしを守り、産業の発展に寄与するための水づくりを独立採算で行っていると思いますが、水道部だけで考えることは財源だけでなく災害についても難しいと思います。様々な災害や地球環境の変化のことを考えると、水道部だけでなく、市全体で考えていく必要があると思います。水道部としては様々なプランを既に検討していると思いますが、この10年間で想定外の事態が発生する可能性は十分にあると思います。その対策をするうえでもやはり市、府や国からの補助金があった方が良くと思います。また、高齢化などが進む中で福祉面の充実や子供への教育についても水道事業としてできることを考えていく必要があると思います。子供への教育の一環として、水道部からも将来のことを考えて教育の分野にも教育委員会に提案することをしても良いと思います。

事 務 局 昨年の11月議会においても独立採算制には限界があるのではないかと質問がありましたが、水道部としては独立採算性の原則及び受益者負担の原則で事業を進めることを考えています。一般会計から繰入れを行っている事業体もありますが、そのような事業体は能率的な経営を行っているものの、それを水道料金だけでまかなうことが客観的に困難である状態の事業体です。本市としてはまだ自力で経営することができますので、独立採算制を取ることを考えています。仮に、一般会計からの多大な繰入れで経営をすることとなった場合、福祉等の他部署の施策と優先順位をつけられたうえで財源を分け合うことになり、現在よりも財源を確保することが困難になることが考えられます。そのようになると必要な施設整備等が行えなくなる可能性があります。そのため、水道部としては今後も独立採算制をとって水道事業を行うことが最善であると考えています。また、水に関する教育について、現在においても浄水所見学や学校に出向いて出前授業を行い、浄水処理の過程を学んでいただいています。しかし、それだけでは十分ではないと考えています。今いただいた意見をすいすいビジョン2029のアクションプランに反映し、積極的に進めていく必要があると思います。

会 長 ありがとうございました。続きまして、次の議題に移りたいと思います。

事務局 (大阪広域水道企業団との人事交流についての説明)

事務局 (令和元年度版経営レポート(案)についての説明)

会長 ありがとうございます。何か質問や意見がありましたらお願いします。

委員 山田駅近くに大阪広域水道企業団の北部水道事業所がありますが、そのことを吹田市民のほとんどが知らないと思います。そのため、普段からもう少しPRをしてはどうかと思います。大阪広域水道企業団の事業への理解が深まり、また、吹田市水道部と大阪広域水道企業団との関りについて知っていただければ、より理解が深まると思います。

会長 大阪広域水道企業団は府内の幹線を管轄しているところで、とても重要な業務を行っているため、市民との交流はとても重要なことであると思います。

委員 北部水道事業所ではどのような業務を行っているのか知りたいのですが、施設見学はできますか。

事務局 水を造っている庭窪浄水場では小学生などが見学をする機会がありますが、山田にある北部水道事業所は工事を行う部署であるため、見学などによる市民との交流は難しい面があると思います。また、水道部としても、本市の北部の水は企業団から受水していますので、そのようなことを水道いどばた会議等でさらに広報したいと思います。

会長 吹田市民であると同時に大阪府民でもあるため、府民に公開している情報を見ることも重要なことであると思います。

委員 経営レポートについて、和暦と西暦を併記しているところと和暦だけのところがあるため、私としては併記することで統一していただきたいと思います。

会長 わかりやすい資料を作成するという観点で修正していただければと思います。それでは、予定した議事はすべて終了しましたので、最後に事務連絡があればよろしく願いいたします。

事務局 (事務連絡)

会長 では今回の審議会は終了です。ありがとうございます。